



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

(国際ロータリー会長 シェカール・メータ)
2021-2022年度 国際ロータリーのテーマ
「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」

(第2660地区ガバナー 吉川秀隆)

WEEKLY BULLETIN

OSAKA NAMBA

大阪難波ロータリークラブ週報

9月 入会記念日 おめでとうございます

9月 2日	川口栄計会員	平成22年	9月 3日	清水一人会員	平成27年
9月 3日	川井宗次会員	令和 2年	9月 5日	網干康史会員	平成25年
9月 5日	米澤 勉会員	平成25年	9月12日	松田禎胤会員	平成25年
9月16日	林 博之会員	平成22年			

未来を変える識字

インドの識字率100%達成への道のりを着実に進む

国際ロータリーの会長に就任するずっと前から、シェカール・メータ氏は意欲的な目標を定めることで知られていました。

難題にも果敢に取り組み、成果を上げるという評判をもつメータ氏に、カルヤン・バネルジー元RI会長は2014年、インドの識字率100%を目指す取り組みを一任しました。これはインド政府も多くのNGOも果たせていない目標です。

「一つの国全体の識字率を100%にすることは決して容易ではない」と気づいたメータ氏は、この目標を「7歳以上の国民の識字率を95%以上にすること」と定義しました(インド政府の推計では、7歳以上のインド国民の現在の識字率は78%)。「それでも私は、ガンジーの『目標を見つけよ、手段は後からついてくる』という言葉に固く信じています」とメータ氏は言います。

会計士であり、不動産開発業も営むメータ氏は、この取り組みに着手しましたが、教育分野の経験は一切ありません。「私には手がかりも教育分野の基礎知識もありませんでした」というメータ氏は、およそ9カ月をかけて専門家から学び、インド全土におけるロータリークラブの識字率向上活動を強化、標準化することを目指す非営利団体Rotary India Literacy Mission (RILM) を設立。RILMはこの目標に向け、インド全土のクラブがRILMの支援と指導の下で取り組むための奉仕プロジェクトを立ち上げました。プロジェクトの名は「TEACH」。キーワードの頭文字T (teacher support: 教師の研修)、E (eラーニング)、A (adult literacy: 成人の識字率向上)、C (child development: 子どもの発達)、H (happy schools: 学校のインフラ向上) を取って名づけられました。「すべての学校を、子どもが楽しく勉強できる環境にすべきだと考えています」と、2019~2021年にRI理事を務めたカマル・サンヴィさんは語ります。メータ氏がRI会長に就任したため、現在はサンヴィさんがRILM会長を務めています。

インドのポリオ根絶キャンペーンを成功させたモデルにならない、このプログラムのコーディネーターが国内のゾーンと地区でTEACHプログラムを推進しました。RILMのスタッフはマニュアル作成と研修運営を行い、今ではインド国内のほぼすべてのクラブがTEACHプログラムの少なくとも一つの分野を支援するプロジェクトに取り組んでいます。サンヴィ氏はこう語ります。「機運は見事に高まりました。ロータリアンは、国が偉大な成果を成し遂げるには高い識字率が必要だと知っています」

数百のロータリークラブとそのパートナー団体が結集して、大規模な成果につながっています。現在までに、RILMの教員研修だけでも推定700万人の子どもがその恩恵を受けており、プログラム全体の成果となると莫大です。

「研修、標準化、パートナーシップの構築。この三つが成功の秘訣です」とメータ氏は語ります。

(RI記事より)

これからの予定

10月 7日 (木) 例会 (ガバナー公式訪問) ・ 定例理事会
10月14日 (木) 例会・臨時総会
10月20日 (水) 友好ゴルフコンペ 於: 伏尾ゴルフ倶楽部
10月21日 (木) 例会
10月22日 (金) IM第4組会長・幹事会 (金輪会)
10月23日 (土) クラブ社会奉仕委員長会議
10月23日 (土) クラブ国際奉仕委員長会議
10月28日 (木) 例会

今日の卓話	次回の卓話	ロータリー4つのテスト
9月30日 (木) 休会の為、ありません	10月7日 (木) 卓話 テーマ「会長幹事就任挨拶」 卓話者 西原芳博会長・中川静夫幹事 テーマ「ガバナー公式訪問」 卓話者 国際ロータリー第2660地区 吉川秀隆ガバナー	言行はこれに照らしてから 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

♪ 四つのテスト

真実かどうか

みんなに公平か

好意と友情を深めるか

みんなのためになるかどうか

9月30日 (木) は例会の予定でしたが
大阪府に緊急事態宣言が
発令されたため
本日は休会といたします。

ニコニコ箱報告	
前回の合計	¥0 (休会)
本日までの累計	¥0 (0%達成)
9月末の予算額	¥990,000

出席報告		
前回	9月16日(休会)	3週前 8月26日(休会)
会員総数	57名	出席免除を除く MUを含む 修正出席率
出席会員数	名	
出席率	%	

大阪難波ロータリークラブ 例会日時 毎週木曜日 12:30
創立 1976年8月5日 例会場 スイスホテル南海大阪7階 芙蓉の間
会長: 西原芳博 幹事: 中川静夫 会報・雑誌委員長: 赤坂 宏 事務局: 安部亜希子
事務局 〒542-0076 大阪市中央区難波5-1-60 スイスホテル南海大阪5階
TEL 06-6632-3956 FAX 06-6632-3957 e-mail osaka-namba@poem.ocn.ne.jp

9月は「基本的教育と識字率向上月間/ロータリーの友月間」です

★来客紹介：ありません。

★会長報告：西原会長

いよいよ来週に迫りました例会再開に向け、私個人的には大変胸が高ぶっています。奉仕したくてもできない、親睦を深めたくてもままならない日々から一歩抜け出し、少しずつでもロータリーライフが実ることに安心感を覚えています。9月末頃からコロナ感染者数が激減し始め、ワクチン接種も70%近くになり、日本製の治療薬も来年には出回りそうな昨今、明らかに7月、8月とは世の中の空気も変わりました。ウィズコロナに国民が慣れたという事もあります、さほどの恐怖感を覚えることが少なくなりました。とはいえ、私たちとしましては、奉仕、親睦を進めつつ、ワクチン接種後もなり得るブレークスルー感染なども念頭に置きながらの活動になっていくと思われまます。

11月には前期から出来ていない新入会員歓迎会や、直前会長幹事慰労会なども予定しております。感染対策に配慮しながらの会にはなりますが、ささやかながら、皆様と楽しいひと時を過ごせることを嬉しく思います。

又、RIではコロナ禍でも着々と今できる事を模索し続けています。例えば、社会奉仕のインパクトを向上させる為、国際キワニス、ライオンズクラブ・インターナショナル、オプティミスト・インターナショナルとのパートナーシップを提携しました。10/10～10/16を「合同奉仕週間」とし、互いに協力して地域社会に貢献する奉仕事業を行うことが奨励されています。コロナ禍で増強にも苦戦する中、奉仕の概念を各々違えど共通点を見い出し、世の中に良い事をするという事には違いないという考えから、このような動きにも発展したのだと想像します。我々も自クラブの活動はもとより、他クラブや地域社会に精通する他団体にも目を向ける臨機応変さも持ちつつ、情報を得ながら自クラブの活動を、より充実したものにする時代なのかもしれません。

★幹事報告：中川静夫幹事

- 10月7日は例会を開催させていただきました。先にFAXでご案内させていただきました通り、ガバナー公式訪問の日となり、会長幹事就任ご挨拶もさせて頂くため、卓話の時間を10分程度延長させていただきました、13:40例会終了予定とさせていただきますので、どうぞ宜しくお願い致します。また、クールビズは9月末で終了となりましたので、ネクタイ着用でお願い致します。
- 10月7日例会終了後、定例理事会を開催させていただきますので、理事役員の方はご出席よろしくお願ひいたします。スイスホテル7F「花桐」で予定しております。
- 10月14日例会終了後、臨時総会を開催させていただきますので、少しお残り下さい。
- 米山奨学会より、2021-22年度米山記念奨学事業「豆辞典」が届きましたので、お送りさせていただきます。ご活用下さい。
- ロータリーレート変更のお知らせです。10月のロータリーレートは、1ドル=112円となっております。

★委員会報告

◇出席プログラム委員会：本間委員長

10月14日・21日・28日の3週に渡り、各委員長の方へ委員会活動計画ご説明のお願いのご案内を送らせていただきます。ご都合の悪い方は、ご連絡頂きましたら日程を変更させていただきますので、宜しくお願い致します。

★ニコニコ箱報告：ありません。

★卓話：ありません。



9月RI会長メッセージ
シェカール・メータ
2021-22年度会長

みんなの人生を豊かにするために奉仕する中で、自分の人生も豊かにしてくれるような体験をしていることでしょうか。誰かの人生を大きく変えるには、読み書きが覚えられるように援助するのもひとつの手です。読み書きができるようになると新しい世界がひらけます。地元の人びとの暮らしについて学べて、ほかの文化が理解できるようになります。読み書きを覚えることで人びととつながることができ、ほかの人を思う心を言葉で表現できるようになります。

9月はロータリーの基本的教育と識字率向上月間です。識字率向上は、貧困脱却、健康増進、平和推進という私たちの活動において非常に重要です。低所得国であらゆる生徒が卒業時に基本的なリーディングスキルを習得していれば、世界的な貧困率が大幅に低減するのです。教育を受けられなければ、読み書きができない子どもは読み書きができない大人になるだけです。今日では、全世界の成人人口の14%（7億6200万人）が基本的なリーディングスキルとライティングスキルを習得していません。その3分の2が女性です。読み書き（読解力）と数的思考力は、一生の間によりよい住宅、ヘルスケア、雇用を手にするために必須のスキルです。

特に女兒と成人女性にとって、読解力は生死に関わることもあります。すべての女兒が初

等教育を修了できれば、出産で命を落とす女性の数はずっと少なくなることでしょう。また、読み書きができる母親の場合、子どもの5年生存率は高くなります。世界中でより多くの人びとの人生をより豊かにするには、各国政府が女兒の教育への障壁をなくさなくてはなりません。これにははっきりとした経済的な理由もあります。男子中心の学校教育を行っている国では、経済的な機会損失は年に10億以上にものぼります。

教育によって人びとに力を授けることこそ、私たちがロータリアンとして掲げる目標の中でも最大級に野心的な目標です。読み書きができないために誰かに読んでもらわなければならないか、自分の名前くらいしか書けなかったりと日々の暮らしがままならない人びとは、決して遠い存在ではありません。今月から、どうすれば識字率向上によって人びとの暮らしを豊かにするために奉仕できるか、その方法を模索してみましよう。大人に読み書きや地元で話される言語を教える無料プログラムを提供している地元の団体や、読み書きに重点を置いた教師の専門能力開発を行う地元の団体を支援しましょう。識字率向上のメンターになりましよう。世界中の子どもたちに学習機会を増やすために活動しているGlobal Partnership for Educationなどの団体と協力しましょう。地元の学校や図書館で行われているプログラムを支援できないか、または地元で必要とされているプログラムを立ちあげられないか相談してみましよう。

インドのロータリークラブとインド政府が協力して大きな成果をあげたTEACH programは、大規模の識字率向上プログラムを行うことで何百万人もの子どもたちを助けられた好例です。パンデミックのためインド中が休校になった際には、このプログラムはEラーニングにより国営放送を使って1億人を超える子どもたちに教育を提供しました。読み書きの習得は、貧困を脱出するための第一歩です。ノーベル賞を受賞したマララ・ユスフザイさんが言うように、「ひとりの子ども、ひとりの教師、1冊の本、1本のペンが世界を変えることができる」のです。